

8月6日(月)

「海洋バイオニクスプログラム3校連携の『森里海連環学』川の学習会」

津和野高校が主幹されている「森里海連環学」の第2回目で、川の学習会へ参加しました。

4月には海の学習会が行われましたが、今回は川の学習会です。朝、高津川の中流域で本校、津和野高校、吉賀高校の3校よりおよそ20名の生徒が参加しました。午前中は、実際に川に入り、アユを中心とした採集および学習会。昼は、アユの学習とともに調理法も学び、講師の先生から解説を学びながら参加者で実食もしました。午後からは匹見川に出かけてハゼやカジカ類を中心とした採集と分類を学び、これらの魚類が海と川を往来する種が多いこと、海と川の関連についても学びました。本校からは、自然科学部の2名と校内の希望者3名の合計5名が参加しました。環境と生物の関連性への広がりを感じたようでした。以下、参加生徒の感想です。

1年生田中結斗君

今回は、鮎や高津川に生息する魚などについて学びました。高津川には、現在約65種類の魚が生息し、国内でも魚種の豊富な川の1つだということを学びました。益田市は、環境要因により多種の魚類の生息を可能にしていますが、地球温暖化や護岸工事により魚の生息域が、狭められていることも知りました。特に鮎などのように海と川を往来する種では、益田川の場合、染羽のコンクリート関が鮎の遡上の限界になっていることも知りました。

午後からは、ハゼやカジカをターゲットとして石の下や藻の陰に隠れている魚の採集を行いました。今回の採集場所では、近縁種でも川のみで一生を生活する種と川と海を往来する種がいることを知りました。森や川、海が魚の生育を可能にしていることを学びました。

1年生佐々木廉君

今回の連環学のテーマの川で学んだことは、鮎の生息場所では、鮎がタニシを排除していることを学んだ。また、顎の部分で、放流鮎と天然遡上鮎を見分けることも知った。調理法も学び美味しく鮎を頂くこともできた。また、久しぶりに川に入って魚を捕ることができて良かった。次の連環学は山がテーマなので、この地域の関連をこれからも参加できることを楽しみにするとともに、積極的に学びたいと思った。

1年生金子広都君

高津川の生物にはどのようなものがあるのかを私は結構知っているつもりだったけど、知らない生物がたくさんいて驚きました。高津川で発見された生物も1種は知っていたけれども、もう1種は知りませんでした。しかも新種で、非常に身近に生息しており容易に捕獲できたので、身近なところでもしっかり観察することが大切なのだと感じました。

生徒の皆さん、次の第3回は最終回で山の学習です。再度募集をしますので、一緒に高津川流域での環境と生物の密接な繋がりを現場で学びませんか。

